

いきもの記

Vol.173 2026.2.26

生物教員 佐藤龍平

沖縄特集⑤ これも教科を超えた連携？ 先生たちの沖縄散歩

「民泊中、先生たちは何してたの？」色んな生徒にそう聞かれた。民泊のコンセプト上、運営側からは「先生は生徒の近くに来ないで」と言われていた。だから正直、、、ヒマだ。まあぼくらがヒマじゃなくなるのは緊急対応をしなければならない時なので、ヒマであることは良いことだ。

待機中、ぼくはじっとしてられない性分なので、せっかく沖縄に来たんだからとホテルの近くで生物観察をしていた（もちろん、何かあればすぐ対応できるようにした上で、だ）。この時は1組のM先生、S先生、そして3組のK先生もついて来た。生徒をフィールドに連れて行く時もそうなのだが、誰かと一緒に生き物を探す時、「何か見せてあげなきゃ」という心理になってちょっと緊張する。自然の生き物相手なので、そりゃいない時はいない。出発前に、「何もいないかもよ」と保険をかけて言っておいたとしても、本当に何にも見つからないと、「なーんだ」とがっかりされそうで、**なんか癪だ**。おそらく、生物ガイドを生業としている方々は、お金も取っているので余計に緊張しているだろう。

ところが、そんな一抹の不安は、**ホテルから10歩くらい歩いたところですぐに消え失せた**。「あ、青いカタツムリ！」「ホタルの幼虫！」と次々に見つかる。こういう時は、その生物の“珍しさ”は関係なくて、純粋に目の前の生物に感動できて楽しい。目が肥えてくると、つ

い、珍しさにばかり目が行ってしまふ。こういう「非いきもの好き」の人たちと歩くと、一般の人にどう見えるのかが分かってこちらもとても勉強になる。かくして、**物理・数学・工業（情報）の先生と歩く珍沖縄散歩**は、思いのほかみなさん楽しんでくれて、こちらも嬉しかった。どうだ、先生たちも修学旅行楽しんでやったぜ！



海が見える坂道で撮影中のS先生 ロケーションも気候も完璧な散歩日和だった。



カマキリと物理のM先生 撮影者であるぼくを威嚇しているこのハラビロカマキリは、背後から巨大生物が満面の笑みで忍び寄っていることには気づいていない。



マギー・タマヤスデ
どう見てもダンゴムシ（甲殻類、ワラジムシ目）だが、タマヤスデは多足類のタマヤスデ目という全く異なるグループに属す。2022年に、タマヤスデの仲間としては日本で41年ぶりに新種記載された。マギーは沖縄方言で「大きい」を意味する。日本最大のタマヤスデ。沖縄島、石垣島などに分布。ちなみに、ちゃんと丸まる。



西表島



西表島

コノハチョウ 左の写真が今回見つけたコノハチョウ。遠くて上手く写せなかったので西表島での写真を上に載せた（2019.7.27撮影）。この散歩での一番の“大物”はこのチョウだ。沖縄県で天然記念物に指定されており、環境省の準絶滅危惧種（NT）にも指定されている。名の通り、木の葉そっくりだが、羽を広げると非常に美しい。



オキナワマドボタルの幼虫
沖縄本島に分布。



カタツムリの一種 移動能力が低く島ごとに進化しやすい。



アオミオカタニシ 沖縄本島以南に分布。



マダラコオロギ トカラ列島以南に分布。



ギンボンザトウムシ 九州以南に分布。



アオタテハモドキのオス
沖縄本島以南に分布。